

安全についてのお知らせ No.17-02 (リコールではありません)

潜在的なACDシステムの緩みについてのお知らせ

2017年6月

概要

アクアラングのACD(オートクロージャードバイス)が装備されているレギュレーターにおいて、以下の現象がお客様より製造元であるアクアラング・フランスに寄せられましたので、念のため皆様に周知致します。
対象となる製品群は下記の通りです。

- CORE(ヨークタイプ全モデル)
- LEGEND(ACD搭載モデルのみ)
- TITAN LX ACD(ヨークタイプ全モデル)

報告されている現象

ACDにおいて、①のシャトルバルブが規定トルクで締めつけられていない場合に、それが緩んでしまい③のヨークリテーナーから離れてしまう潜在的な可能性があります。

この状況は、レギュレーターをタンクから取り外す際に、レギュレーターに圧力が残ったまま力ずくで取り外そうとした場合に起こり得る現象です。(レギュレーターをタンクから外す際は、完全に残気が無い状態を確認した上で行って下さい。)

もし①のシャトルバルブが緩み過ぎてしまった場合には、タンクからのガスの流れを妨げてしまう場合がございますので危険です。

目視による確認方法

もし①のシャトルバルブが緩んでしまっている場合は、②のシャトルクラウンと③のヨークリテーナーの間に隙間が発生します。

図Aはシャトルバルブが緩んでいない正常な状態です。一方で図Bはシャトルバルブが緩んでおり、隙間が見えている状態です。赤い矢印部分が緩んでいる箇所となります。

つきましては、ACD機能が装備されたレギュレーターをお使いの皆様におかれましては、ダイビング前にタンクにレギュレーターを取り付けた際、その様な隙間が無いかどうか?御確認をお願い致します。

万が一、隙間が見られた場合は下記の対応をお願い申し上げます。

隙間がある場合の対応方法

もしも②のシャトルクラウンに隙間を発見した場合は、お買い求めになられた小売店に持ち込み、ACDをレギュレーター本体から一旦とり外した上で、①のシャトルバルブを0.3m.kg(3N.m)の締め付け強度にて再度締め付け直してもらってください。この作業はメンテナンスマニュアルの手順に従って行ってもらうください。

注意!

①のシャトルバルブが緩み過ぎてしまった場合には、ガスの流れを妨げてしまう危険性がありえる事を、皆様へ注意喚起致します。この場合、国ごとで流通しているバルブが異なりますが、DINバルブにインサートが入っているタイプのヨーク用バルブにおいては、そのインサートの六角形が8mmより小さい場合には水中でガス不足になってしまう潜在的な危険性があります。日本アクアラング(株)は年一回のオーバーホールを推奨しております。

図A



図B

